

# 可能性を求めて

特許審査第四部インターフェイス  
新正会員代表  
岩橋 龍太郎



ただいま、ご紹介に預かりました、岩橋龍太郎と申します。

このような厳肅かつ盛大な場において大変僣越ではございますが、任期付採用者を代表しまして、ご挨拶させて頂きたいと存じます。

まず、はじめに、ご来賓の方々におかれましては、ご多忙の中ご出席頂き、厚く御礼申し上げます。

また、5月に入庁以来、私共任期付採用者を暖かく迎え、懇切丁寧にご指導頂いております講師の方々、指導教官の方々、諸先輩方にも深く御礼申し上げます。

今年度も数多くの任期付職員を採用頂きました。

その経歴は多種多様であり、既に弁理士資格を有する者、企業の知財部や特許事務所での知財経験を持つ者、あるいは各技術分野の最前線で活躍してきており、知財に関しては全くの素人も多数おります。

したがいまして、それぞれの胸の内に秘める思いは様々であります。皆に共通していることは、これからの日本、のみならず世界的にも、知的財産というものが更にその重要性を増すことを確信し、自分ができることへの可能性を求め、ここに集まってきたことだと思います。

そんな中、私共、任期付採用者に期待されていることは、今まで培ってきた知識と経験を審査業務に生かし、審査の迅速化に貢献することです。

私自身に関しましては、石油探鉱におけるシミュレーターの研究開発経験や、各種サーバー構築におけるハードウェアやOS周辺のテクニカルスキルを十二分に

活用していきたいと考えており、他の任期付採用者におきましても、それぞれが持つ特化分野の専門性が、必ず期待以上の成果を上げられると自負しております。

また、任期満了後には、特許庁での審査業務等の経験と民間企業におけるそれぞれの経験を合わせ、現場と行政との架け橋となるような人材として、多方面で活躍できることを私共自身期待しております。

そのため、任期中には民間出身の審査官として、出願人や代理人の方々やフレンドリーな関係を築き、同時に横の繋がりを大切にしながら、職務にあたりたいと考えております。

任期付ということで、期間が限られているため、これからは更に多くの事を短期間で身に付けていかなければなりません。特許庁・日本政府の一員として国家の産業発達に貢献できることを誇りに、研鑽を積んでいく所存でありますので、これからも何卒、ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

本日は、誠にありがとうございました。

